



【市長就任のあいさつ】

# 笑顔あふれる 大崎をめざして

大崎市長  
伊藤康志

去る四月十三日に告示されました市長選挙におきまして、市民皆様の温かいご支援・ご支持をいただき、無投票で三選を果たし、引き続き市長として、大崎市の市政を担わせていただくことになりました。身に余る光栄であり、改めて責任の重さを痛感しております。心から感謝申し上げますとともに、市民皆様の大きな期待と信頼にこたえられるよう、今後とも全力を

尽くしてまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

これまでの二期八年間は、市民皆様とともに、大崎を耕し、種をまき、大輪の花を咲かせるために渾身の努力を傾注してまいりました。

合併協定項目については、二百七十九項目のうち二百六十八項目の調整を終え、新市建設事業については、百十二事業のうち

九十九事業を完了または着手いたしました。

行財政改革の取り組みでは、およそ百六億円の経費節減を達成し、現在は第三次集中改革プランに取り組みを進めてまいりました。

また、市の蓄えである財政調整基金については、約八十億円ふやすことができました。さて、我が国では、低成長

と人口減少の続く成熟期を迎える一方、グローバル化が進展し、社会的な行動、経済面や文化面などで世界の影響をますます強く受けるようになってきています。

そうした中、あの東日本大震災が発生し、あれから三年が経過しました。本市も、内陸部最大規模の被災地となりましたが、市民皆様のご協力をいただき、復旧から内陸部の復興モデルを目指した復興まち

づくりに向かって着実に歩み出しています。これらの状況から、私は、市政運営の理念を四つ掲げていきます。

- 一 安全・安心
  - 二 活力・交流
  - 三 自立・協働
  - 四 改革・挑戦
- であります。

理念に基づき向こう四年間のチャレンジとして、次の四つの実行計画を掲げました。

## ① 復旧から再生・発展に 挑戦するまちづくり

内陸の復興モデルを目指して、震災復興計画並びに中心市街地復興まちづくり計画を推進し、市民一人ひとりが復興を実感できるまちづくりを進めてまいります。また、災害公営住宅の整備とコミュニティ形成支援を進めてまいります。大規模な災害の発生に備えてデジタル防災行政無線の早期整備を進め、防災・減災体制の一層の強化を図ってまいります。

## ② 定住と交流！ にぎわいのある 東北の拠点都市づくり

暮らす人、訪れる人が元気なまちとして、日々の暮らしに安心が感じられるように、ソフト施策の展開やハード施策にも力を入れて進めてまいります。高度で先進的な医療を提供する新市民病院本院が七月一日から外来診療を開始いたしますが、今後は、新病院までの循環バス運行やアクセス道路の整備を進めます。また、新図書館等複合施設の建設を進めるとともに、鹿島台駅周辺整備事業の早期実現を図ります。社会全体で支援する子ども・子育て支援事業計画の

策定と推進、高齢者福祉と介護保険事業の推進を図ってまいります。地の利を生かした主要道路などの整備と施設整備による都市機能の拡充を図ってまいります。

## ③ 産業維新の 環境創造都市づくり

本市にある農林業やものづくり産業、観光など、現在の地域の特性を磨き上げること、あるいは地域特性を統合し新たな産業を作り出したいと考えています。さらには、地域の持つ資源と情報通信技術を融合し、大崎ブランドの確立と新産業の創造を図ってまいります。

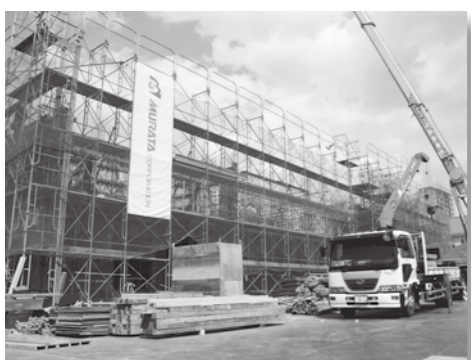
## ④ 話し合う 協働のまちづくり

本年四月から話し合う協働のまちづくり条例が施行いたしました。市民皆様の声が生かせるまちづくりと住みよい暮らしの実現を進めてまいります。特に、市民皆様のまちづくりへの参加への支援や、市花・市木の制定などを進め、将来に希望を持てるような、市民満足度の向上と一体感の醸成を図ってまいります。

私たちの地域は、これまで体験したことのない厳しい現状と変革のときを迎えています。大崎市には、豊かな自然資源、温泉などの観光資源、技にたけ、知恵に

満ちた人財、農業・畜産試験場などの高次研究機関、新幹線や高速道路など、すぐれた交通基盤、農林業や商業、電気・電子や住宅関連などの産業資源、都市や農村といった多様な居住空間、個性豊かな歴史文化など、全国に誇れる豊かな地域資源があります。まさに「宝の都(くに)・大崎」であります。

間もなく、合併十年という一つの節目を迎えることとなります。たぐいまれな資源、優位性、発展性を広域的に連携、融合し、未来に誇れる笑顔あふれる大崎モデルを実現するために、ともに果敢に挑戦してまいります。



現在、市内6カ所170戸の建設を進めている災害公営住宅(写真は古川地域七日町の建設の様子)



地域完結型の基幹病院として、圏域約30万人の生命を支える大崎市民病院新本院が、7月1日から外来診療を開始



「なる子ちゃんこ鍋」や「しみっぱなし井」「トマトみそラーメン」など地域の個性を融合させた『大崎宝めし』



市民協働の精神のもと、各地域で地域活動が活発に行われている(写真は古川地域狐塚行政区の皆さんによる環境整備活動)